Omi Myoren Lotus Park Museum

守山市近江妙蓮公園
近江妙蓮資料館

守山市中町（田中自治会）の妙蓮池に咲く近江妙蓮は、室町時代から600年もの間、
田中家及び地元の人々によって守り育ててきた貴重な蓮です。
この公園は、妙蓮池に隣接して妙蓮を保存、伝承する目的で蓮池を配した日本庭園を中心とした都市公園です。
また、資料館には、田中家に残る妙蓮の歴史を知る上では日本唯一の資料である
400点余りの古文書の一部を展示しています。

▲近江妙蓮資料館（おうみみょうれんしりょうかん）
貴重な古文書などの展示室、歴史や蓮に関する資料が置いてある図書室、妙蓮池及び瑞蓮池が観蓮できる妙蓮庵が配置されています。

■ 近江妙蓮

昭和40年3月26日／滋賀県天然記念物指定
昭和50年8月 1 日／守山市の市花に制定

◀妙蓮の庭（みょうれんのにわ）
妙蓮庵から比叡、比良の山並みを遠望し、瑞蓮池や妙蓮池を覆いつくした妙蓮を観蓮することができる日本庭園。

◀瑞蓮池（ずいれんいけ）
室町時代から永年の間、守り続けてきた妙蓮が再び絶えることがないように、近江妙蓮公園に新池を設置することで、妙蓮の保護育成をさらに強化しています。

◀妙蓮池（大日池）（みょうれんいけ　だいにちいけ）
古文書によると室町時代から、この妙蓮及びその池は田中家の貴重な財産として、何百年もの間守り育ててきた。明治29年から後は花が咲かなくなり、昭和35年に大賀博士が武蔵野妙蓮を府中市中央公園からこの池に里帰りさせた蓮です。
毎年、夏になると約800本の見事な淡紅色の花が次々と咲き観蓮することができます。

交通アクセス

JR琵琶湖線　「守山」駅西口～バス（服部線）～田中下車
自動車　栗東IC～国道8号～レインボーロード（琵琶湖大橋取付道路）～播磨田町北交差点右折(1.5km)

資料館の利用のご案内

開館時間　午前9時～午後5時（蓮の開花期は時間を延長する場合があります）
開館日　6月1日～9月30日（火曜日を除く毎日。但し火曜日が休日の場合はその翌日が休館日となります。）
上記以外　金・土・日曜日及び休日（但し年末年始は休館日となります。）
入館料　妙蓮の開花期である7月～8月の指定した期間のみ有料

	個人	団体(20名以上)	
大人・高校生	220円	160円	※幼児は無料 ※障害のある方の付き添いの方1名無料
小・中学生 障害のある方 65歳以上の方	110円	60円	

妙蓮庵の利用　利用する1週間前までに河西会館に申し込んでください。

※喫煙場所以外でのたばこはご遠慮ください。　※ゴミは各自お持ち帰りください。
※ペットを連れての入園、ボール遊びはご遠慮ください。
※近江妙蓮は県の天然記念物です。貴重な財産ですので大切に守りましょう。

近江妙蓮公園・近江妙蓮資料館

〒524-0003 滋賀県守山市中町39番地
TEL&FAX 077-582-1340

近江妙蓮の植物学的特性について

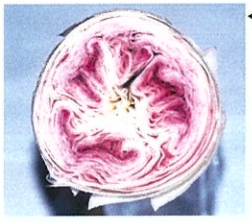
（妙蓮）　（常蓮）
妙蓮と常蓮の断面比較

ミョウレン（妙蓮）は、被子植物の双子葉類・ハス科に属する大型の水生植物です。その葉や地下茎の様子は、普通のハス（常蓮）と違いはありませんが、花の様子に相違が見られます。

妙蓮は、つぼみの外形は常蓮に似ていますが、開花するとその様子は全く異なります。常蓮の花は、はちすと呼ばれる花托（雌しべ）が多数の雄しべに囲まれて存在しますが、妙蓮は雌しべも雄しべもなく花弁だけで花ができています。このことは、つぼみの時期にその切断面を調べるとよく分かります。常蓮は早い時期から花托があるのに、妙蓮は花弁だけです。

妙蓮の花弁数は、開花前のつぼみの時期には２千枚前後ありますが、開花すると次第に花弁の数が増えて５、６千枚になっています。時には、８千枚を超えることもあります。花弁の数が増えるため、外側にある大型の花弁が押し出されるようにして散り落ちていきます。そして、150枚前後の花弁を落としながら２週間から20日前後咲き続けます。常蓮の花は、４日間で全ての花弁を散らせて咲き終わりますが、妙蓮の花は20日間前後も咲き続けて、そのまま数千枚の花弁を散らさないで枯れる奇妙な蓮の花なのです。

妙蓮は、種子を作ることができないので、レンコンで次の代の新個体を作ります。このことは、綺麗な花を咲かせている妙蓮が、環境の変化に弱い絶滅危惧の植物であることを意味しており、田中家を始め地元の人々が、妙蓮の保護育成に尽力を注ぎ続けた結果が、600年を超える長い間咲き続けている理由です。



◀開花前の妙蓮の花の輪切り面

常蓮のつぼみの▶輪切り面

近江妙蓮の歴史

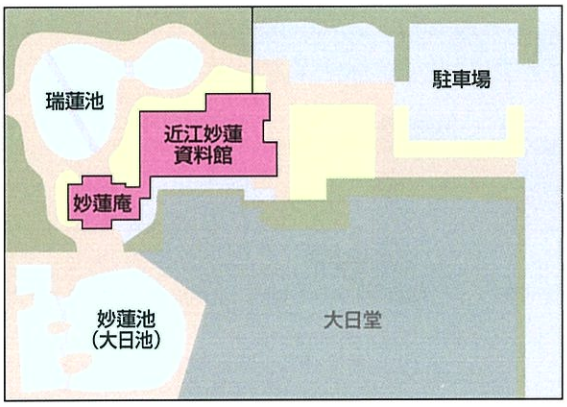
「江源日記」によると、応永13年(1406)7月、観音寺城の六角満高を経て足利義満に大日池の妙蓮が献上されています。そして応永33年(1426)7月には、六角満経から足利義持に献上された妙蓮が、奇花であることを賞した義持によって皇室へ献上されています。このように室町時代から皇室や将軍家に献上されたという由緒を持ち、600年以上前の古い時代から大日池に咲き続けるハスが妙蓮です。

足利義満に献じられた「田蓮記」によると、「南天竺（インド南部）の福田中にあった妙蓮を達磨大師が中国に伝え、建康（南京）を首都とする梁の武帝に献上された。梁の武帝は、これを許田中に植え大切にされた。慈覚大師円仁が唐より帰朝のときこれを持ち帰り、田中の池に植えられそれ以来長く続いて生育している。」と妙蓮の由来が記されています。さらに、妙蓮は1茎2花から12花まであり、総称して田蓮と名付けています。

「双頭蓮口上書」明和元年（1764年）に江戸幕府に差し出された妙蓮いわれ書

江戸時代には妙蓮が、多くの人々から不思議な蓮の花として賛美されています。越中城端の本草学者で、桜町天皇の信任を得た直海元周の記した「田蓮記」によると、徳川五代将軍綱吉が妙蓮の奇花であることを聞いて、近江の大日池から江戸城の池に移植しました。また加賀藩主前田綱紀も金沢城内にそれを移植しました。しかし、そのどちらも妙蓮は咲かないで常蓮になりました。妙蓮の移植は、将軍家などにより度々試みられていますが全て常蓮に変わり、大日池のみで花を咲かせる不思議な蓮として評価を高めました。

京都はもちろん江戸でも、大名方など多くの人々の間で妙蓮が不思議な花として評判になっていました。宝暦13年(1763)には、丹波亀山藩主松平紀伊守が帰国の途中わざわざ大日池に立ち寄って妙蓮を見ています。また江戸時代を通じて皇室や宮家あるいは公卿方、そして将軍秀忠、綱吉、吉宗や尾張家、紀伊家、加賀藩、膳所藩、大溝藩などや京都所司代、京都町奉行、西本願寺など多方面に妙蓮の花が献上されたという記録が残されています。花は枯れ花も尊ばれていたようです。散り落ちない不思議な花であるとともに安産の妙薬として貴重であったようです。



施設の概要

公園面積　2,300㎡

近江妙蓮資料館
- 建築面積　246.0㎡　　資料館　198.5㎡
- 妙蓮庵　47.5㎡（茶室12畳・水屋3畳）
- 構造　木造平屋建（日本瓦葺き一部銅板葺き）

瑞蓮池　210.0㎡（景石 約35t）
駐車場　11台（内身体障害者駐車場1台）
園路　平石張舗装 140.0㎡　真砂土硬化舗装 220.0㎡
植栽　高木（クスノキ等）35本
　低木（ヒラドツツジ等）約800本
　地被類（モリムラマンネン等）180.0㎡

公園以外の施設

妙蓮池　330.0㎡

市の花 妙蓮
この花は、紅花で一茎に数多くの花をつける。花びらの数は、2000枚から8000枚にも達し、非常に美しい花。

妙蓮に関する田中家の古文書

600年もの間妙蓮を守り育ててきた田中家には、400点余りの妙蓮に関わる古文書が残されています。これらの古文書は、他に例のない貴重なものばかりで、妙蓮の歴史を知る上では日本唯一の資料です。

「蓮花立覚留日記」など4冊の蓮日記。明暦3年(1657)～文化12年(1815)の159年間、妙蓮の開花数や農作物の豊作や凶作、野洲川の洪水のことなどにかかわる日記。

「江源日記」現存16冊、応長元年(1311)～天文23年(1554)の244年間の近江守護職佐々木六角氏に関わる記録。この中に、妙蓮が足利将軍家などに献上されたことや田中家の当主が六角家に仕えていたことが記されている。

「禁中様へ蓮花上げ奉覚」享保18年(1733)7月18日、夜通しかけて京都まで運んだ妙蓮を、中御門天皇に献上した経緯を書き残した文書。

「蓮花立覚留日記」などの表紙

「妙蓮の御詠歌」冷泉家中興の祖といわれる歌人冷泉為村卿(1712～1774)や権大納言柳原紀光卿(1748～1800)などが妙蓮を詠じて田中家に贈った歌。

近江妙蓮の里帰りと大賀一郎博士

大賀一郎博士

何百年もの間大日池で咲き続けた妙蓮が、明治29年から後は咲かなくなりました。古くからの伝承を持つ妙蓮が絶えたことを、田中家や地元の人々はたいへん残念に思い、妙蓮池保勝会を創設するなどして妙蓮の復活を望んでいました。そして昭和31年、世界的なハス学者である大賀一郎博士に依頼して、大日池の復興に取りかかりました。

昭和33年、金沢駅前の持明院が加賀妙蓮の池を移転することになり、この指導を大賀博士に依頼しました。その時、この蓮根5本を研究のため府中市にある中央公園の池に移植しました。この妙蓮の蓮根が、昭和35年4月20日大賀博士によって大日池に植えられました。そして昭和38年の夏になると、この妙蓮が見事に花を咲かせました。68年ぶりに妙蓮が大日池に復活し、大賀博士はこれを近江妙蓮と呼ばれました。

この後大賀博士は、「近江妙蓮から近江妙蓮へ」と題する著作を発表し、近江妙蓮の由来や歴史を紹介するとともに金沢の持明院にある加賀妙蓮は、幕末から明治初年の頃大日池の妙蓮が移されたものであることを明らかにされました。明治29年で絶えた妙蓮は、大賀博士の尽力によって無事里帰りしたのでした。近江妙蓮の恩人大賀一郎博士は、昭和40年6月15日逝去されました。毎年7月末の日曜日には、大賀博士を偲んで近江妙蓮の観蓮会が開かれています。